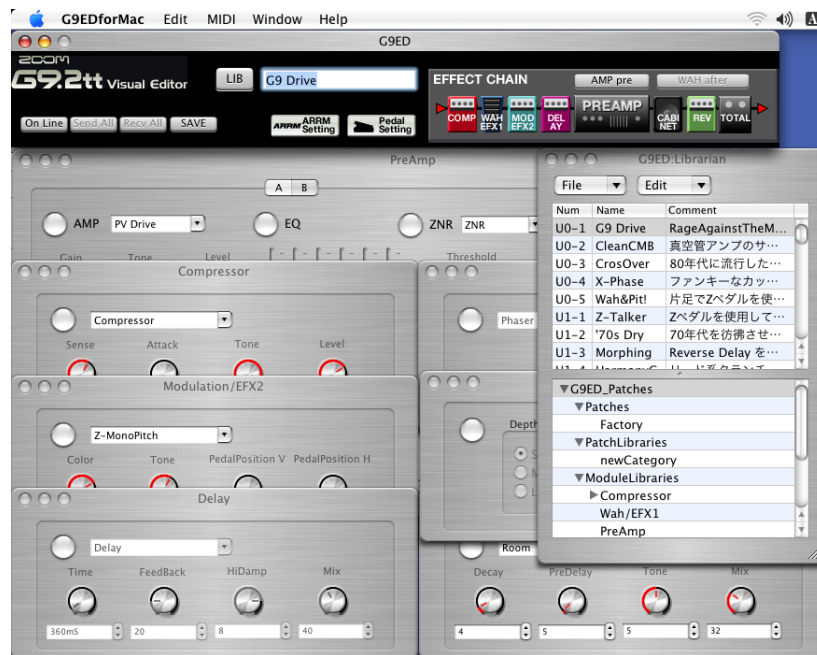


G9.2tt Editor / Librarian for Mac

オペレーションマニュアル



目次

はじめに	2
使用前の準備	2
G9EDforMacを起動する	2
G9.2ttとMacintoshを接続する	2
G9EDforMacをオンラインにする	3
G9.2ttとの間でパッチデータを送受信する	4
G9.2ttからパッチセットを受信する（レシーブオール）	4
G9.2ttにパッチセットを送信する（センドオール）	5
Macintosh上でパッチデータを管理する	7
ライブラリアンウィンドウについて	7
ライブラリアンウィンドウを操作する	8
パッチセットをMacintosh上に書き出す／Macintosh上から読み込む	9
単体パッチ／モジュールを管理する	10
Macintosh上でパッチデータをエディットする	14
エディターウィンドウについて	14
モジュールウィンドウを操作する	16
単体パッチをエディットする	20

© 株式会社ズーム

本マニュアルの一部または全部を無断で複製／転載することを禁じます。

※ MacintoshおよびMac OSは、米国Apple Computer,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ 文中のその他の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。

※ 文中のメーカー名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

zoom

株式会社ズーム

〒101-0032

東京都千代田区岩本町2-11-2 イトーピア岩本町二丁目ビル2階

ホームページ <http://www.zoom.co.jp>

はじめに

ZOOM G9.2tt Editor / Librarian for Mac（以下“G9EDforMac”）は、G9.2tt 専用のMacintosh対応エディター／ライブラリアンソフトウェアです。
G9EDforMacを使えば、G9.2ttのパッチデータをMacintoshコンピュータに取り込んで編集／保管したり、Macintoshの画面に表示されるノブやボタンを使ってG9.2tt本体で選ばれているパッチを操作したりできます。

使用前の準備

ここでは、G9EDforMacの基本となる設定について説明します。

■ G9EDforMacの動作環境

- MacOS X(10.2以降) が正常に動作するMacintosh
- MIDIの入出力装置（USB接続のMIDIインターフェースなど）
G9EDforMacは、Macintoshに接続されたMIDIインターフェースのMIDI IN端子とMIDI OUT端子の両方を使用してデータの送受信を行ないます。

G9EDforMacを起動する

ここでは、G9EDforMacを起動する方法を説明します。

1. G9EDforMacを起動するには、“G9EDforMac”のアイコンをダブルクリックしてください。
G9EDforMacが起動します。
2. G9EDforMacを終了するときはG9EDforMacメニューから“Quit Application”を選択してください。

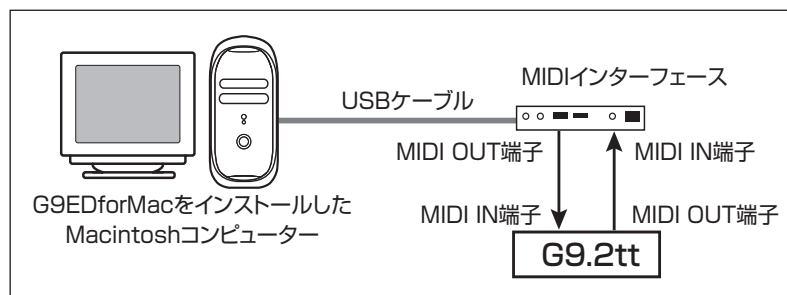
HINT

G9EDforMacメニューから“About Application”を選ぶと、現在のG9EDforMacのバージョンが確認できます。また、Helpメニューから“ZOOM Home Page”を選ぶと、自動的にブラウザが立ち上がり、株式会社ズームのウェブサイトアクセスできます。G9EDforMacのバージョンアップの情報は、ウェブサイトでご確認ください。

G9.2ttとMacintoshを接続する

G9.2ttとMacintoshのMIDIインターフェースを接続するときは、2本のMIDIケーブルを次のように結線します。

■ 接続例（USB接続のMIDIインターフェース使用時）



NOTE

G9.2ttのUSB端子を経由してMIDIメッセージを送受信することはできません。

G9EDforMacをオンラインにする

データを送受信するMIDIポートを選択し、G9EDforMacとG9.2ttとの間でデータの送受信が行えるように設定します（オンラインにします）。

1. G9.2ttとMIDIインターフェースを接続し、G9EDforMacを起動してください。

このときG9.2ttの電源が入っていることも確認します。



2. MIDIメニューをクリックして、“MIDI IN”と“MIDI OUT”のサブメニューからG9.2ttを接続したMIDIポート名を選択してください。

現在選択されているMIDIポート名の左側にチェックマークが表示されます。

NOTE

MIDIメニューの“MIDI IN”と“MIDI OUT”にMIDIインターフェースが表示されないときは、MacintoshがMIDIインターフェースを認識していない可能性があります。システムソフトウェア“Audio MIDI設定”を開き、MIDIインターフェースが認識されているかどうかを確認してください。詳しくは、MIDIインターフェースの取扱説明書をご参照ください。

3. G9EDforMacをオンラインに切り替えるには、On Lineボタンをクリックして点灯させてください。



これでG9EDforMacとG9.2ttの間でデータの送受信が行えるようになります。On Lineボタンを点灯させてもデータの送受信ができないときは、接続とMIDIポートの設定をもう一度確認してください。

HINT

MIDIメニューの“OnLine”を選んで、オンラインに切り替えることも可能です。

G9.2ttとの間でパッチデータを送受信する

G9EDforMacとG9.2ttの間では、100のパッチ（ユーザーエリアの全パッチ）単位でパッチデータの送受信を行ないます。この100のパッチの集合を“パッチセット”と呼びます。

ここではG9EDforMacとG9.2ttとの間でパッチセットを送受信する方法を説明します。

NOTE

G9EDforMacを使ってG9.2ttから単体のパッチを取り込んだり、単体のパッチをG9.2ttに上書きしたりすることはできません。

G9.2ttからパッチセットを受信する（レシーブオール）

G9EDforMacは、G9.2ttに保存されたパッチセットを取り込むことが可能です。取り込んだパッチセットは、音を確認しながら個別に編集（エディット）したり、Macintosh上にファイルとして書き出ししたりできます。

HINT

取り込んだパッチセットは、自動的にMacintoshのハードディスクに保存され、次にG9EDforMacを起動するときに自動的に読み込まれます。

1. G9EDforMacを起動してオンラインに切り替えてください。
2. ライブラリアンウィンドウが表示されていることを確認してください。
ライブラリアンウィンドウが表示されていないときは、LIBボタンをクリックして表示させてください。



3. G9.2ttからパッチセットを取り込むには、Recv Allボタンをクリックしてください。

取り込みが始まり、進行状況を表すダイアログがMacintoshの画面に表示されます。取り込みを中止するにはAbortボタンをクリックしてください。

取り込まれたパッチセットは、パッチやモジュールのデータを管理する“ライブラリアンウィンドウ”で確認できます。ライブラリアンウィンドウの詳細は「Macintosh上でパッチデータを管理する」（→P7）をご参照ください。



ライブラリアンウィンドウ下部は、ツリー状の階層構造になっています。名前の先頭に“▼”マークが表示されている場合は、そのすぐ下に別の階層があることを表します。

HINT

- ・ エラーを表すダイアログが表示されて、取り込みが始まらないときは、「使用前の準備」(→P2)を参考に接続やMIDIポートの設定を確認してください。
- ・ 取り込んだパッチセットをMacintosh上にファイルとして書き出す方法については「パッチセットをMacintosh上に書き出す／Macintosh上から読み込む」(→P9)をご参照ください。

G9.2ttにパッチセットを送信する(センドオール)

G9EDforMac 上にある任意のパッチセットをG9.2tt に送信してユーザーエリアの全パッチに上書きします。

1. G9EDforMac を起動してオンラインに切り替えてください。
2. ライブラリアンウィンドウが表示されていることを確認してください。
ライブラリアンウィンドウが表示されていないときは、LIB ボタンをクリックして表示させてください。



3. ライブラリアンウィンドウ下部の“Patches”の階層から、G9.2ttに送信するパッチセットをクリックして選択してください。
G9.2ttに送信できるパッチセットは“Patches”の階層に保存されています。

-
- 4. 送信するパッチセットを選んだら、SendAll ボタンをクリックしてください。**
パッチセットの送信手順が書かれた SendAll ウィンドウが表示されます。

- 5. SendAll ウィンドウの手順に従って、G9.2tt で以下の操作を行ってください。**

- ① G9.2tt をプレイモードにします。
- ② [AMP SELECT/SYSTEM] キーを押します。
- ③ [TYPE] ノブを回して “BulkDumpRx”（バルクダンプ受信）のパラメーターを呼び出します。



- ④ [PAGE] キーを押します。
G9.2tt がパッチデータの受信待機状態に切り替わります。

- 6. パッチセットの送信を実行するには、SendAll ウィンドウの Execute ボタンをクリックしてください。**
送信が始まり、SendAll ウィンドウに進行状況が表示されます。送信を中止するには Abort ボタンをクリックしてください。

NOTE

MIDI メッセージの送受信が失敗したことを表すエラーメッセージが表示されたときは、G9.2tt の設定をもう一度確認してから、操作をやり直してください。

送信が終わると、SendAll ウィンドウに Close ボタンが表示されるので、クリックしてウィンドウを閉じます。

これで G9.2tt のユーザーエリアには、手順 3 で選んだ G9EDforMac のパッチセットが上書きされます。

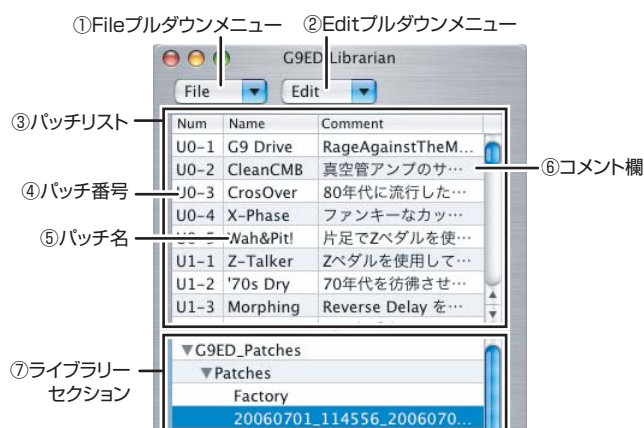
- 7. G9.2tt の [EXIT] キーを押して、プレイモードに戻してください。**

Macintosh上でパッチデータを管理する

ライブラリアンウィンドウを使えば、G9.2ttから取り込んだパッチセットの名前を変更したり、パッチセットのバックアップをMacintosh上にファイルとして書き出すことができます。また、単体パッチや単体モジュールの設定を個別に登録しておくことも可能です。

ライブラリアンウィンドウについて

ここでは、ライブラリアンウィンドウの各部の名称と動作について説明します。



① Fileプルダウンメニュー

パッチセットの書き出しや読み込みを行うメニューです。

② Editプルダウンメニュー

ライブラリアンウィンドウ下部にカテゴリーやパッチなどを追加したり、パッチセットの名前変更や削除を行うメニューです。

③ パッチリスト

ライブラリアンウィンドウ下部で選択されたパッチセットに含まれる、すべてのパッチを表示します。

④ パッチ番号

G9.2ttのユーザーエリアのグループ名／バンク番号／パッチ番号に対応する番号です。

⑤ パッチ名

パッチ名を表示します。

⑥ コメント欄

パッチごとにつけられたコメントを表示します。

⑦ ライブラリーセクション

G9EDforMacに取り込んだパッチセットの書き出し／読み込み、および単体パッチや単体モジュールの登録／読み出しなどを行うセクションです。

ライブラリーセクションは次の3つの項目に分けられます。

● Patches

G9.2ttから取り込んだパッチセットを保存する階層です。“Patches”の階層に保存されたパッチセットは、G9.2ttのユーザーパッチと同数の100パッチから構成されています。いずれかのパッチセットをクリックすると、そこに含まれるすべてのパッチがウィンドウ上部のパッチリストに表示されます。

● PatchLibraries

● ModuleLibraries

それぞれ単体パッチや単体モジュールの設定を登録する階層です。詳しくは「単体パッチ／モジュールを管理する」(→P10)をご参照ください。

HINT

ライブラリーセクションはツリー状の階層構造になっています。名前の先頭に“▼”マークが表示されているときは、すぐ下に別の階層があることを表します。

ライブラリアンウィンドウを操作する

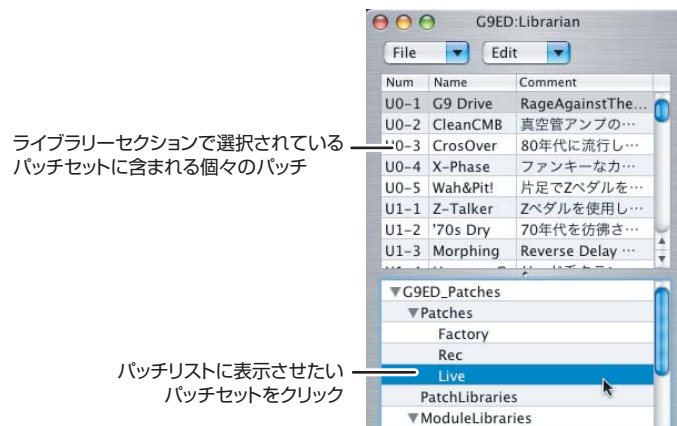
ここでは、ライブラリアンウィンドウでパッチセットや単体パッチを操作する方法を説明します。

1. ライブラリアンウィンドウをクリックして、画面の一番手前に表示させてください。

ライブラリアンウィンドウが表示されていなかった場合は、LIB ボタンをクリックして表示させます。

2. ライブラリーセクションの“Patches”の階層から、パッチリストに表示したいパッチセットをクリックして選択してください。

選択したパッチセットに含まれる100のパッチがパッチリストに表示されます。



HINT

- ・ G9EDforMac を最初に起動したときは、“Patches”の階層に“Factory”という名前が付いたパッチセットが含まれています。これはG9.2ttの工場出荷時のユーザーエリアの100パッチと同じ内容です。
- ・ パッチセットの名前を変更するには、名前を[Control]-クリックして、表示されるメニューから“Rename”を選びます（または、名前をクリックして選択し、Editプルダウンメニューから“Rename”を選びます）。
- ・ パッチセットを削除するには、パッチセット名を[Control]-クリックして、表示されるメニューから“Delete”を選びます（または、パッチセットをクリックして選択し、Editプルダウンメニューから“Delete”を選びます）。ただし、パッチセットが1つしか表示されていないときは削除できません。

3. パッチリストのパッチを切り替えるには、目的のパッチをクリックしてください。

パッチを切り替えると、エディターウィンドウ内の各設定値が、そのパッチの値に従って変化します。また、エディターウィンドウの設定値がG9.2ttに送信され、G9.2ttのパッチの値も同じように変更されます。このとき、パッチの音色をG9.2tt側で確認できます。

NOTE

G9.2tt側の音色変化は、一時的なものだということにご注意ください。G9EDforMacまたはG9.2ttを操作して他のパッチに切り替えたときに、破棄されます。

HINT

エディターウィンドウで編集した単体パッチを、元のパッチリストに上書き保存することも可能です。詳しくは「Macintosh上でパッチデータをエディットする」(→P14)をご参照ください。

パッチセットをMacintosh上に書き出す／Macintosh上から読み込む

G9EDforMacに取り込んだパッチセットは、ファイルとしてMacintoshのハードディスク上に書き出すことが可能です。書き出したファイルは必要なときに読み込んで、G9EDforMacにパッチセットを加えることができます。外部メディアにバックアップを作成したり、ユーザー同士でパッチセットを交換するなどの用途に利用できます。

■ パッチセットの書き出し

ここでは、パッチセットをMacintosh上にファイルとして書き出す方法を説明します。

1. ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションから、書き出したいパッチセットをクリックして選択してください。
2. ライブラリアンウィンドウのFileプルダウンメニューから“Export”を選んでください。



ファイル名の設定やファイルの保存先の選択を行うExportウィンドウが表示されます。

3. ファイル名の設定とファイルの保存先の選択が終わったら“保存”ボタンをクリックして書き出しを実行してください。
ファイルの書き出しが完了するとダイアログが表示されますので、“OK”をクリックしてダイアログを閉じます。
G9EDforMac内部に含まれるパッチセットを削除した後でも、このファイルを読み込めばいつでも復帰できます。

■ パッチセットの読み込み

ここでは、ファイルとして書き出されたパッチセットをG9EDforMacで読み込む方法を説明します。

1. ライブラリアンウィンドウのFileプルダウンメニューから“Import”を選んでください。



読み込むファイルを選択するImportウィンドウが表示されます。

2. 読み込むファイルを選んだら、“開く” ボタンをクリックして、読み込みを実行してください。

ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションに、読み込まれたパッチセットが追加されます。

HINT

一度パッチセットを読み込んでおけば、次からはG9EDforMacを起動するだけで、“Patches” の階層からそのパッチセットを選択できます。

単体パッチ／モジュールを管理する

G9EDforMacでは、単体のパッチまたは単体のモジュールの設定を“カテゴリー”と呼ばれる階層に登録して、必要なときに読み出すことが可能です。この機能を利用すれば、毎回お気に入りのパッチをパッチリストから探したり、よく使うモジュールの設定を初めから作り直したりしなくて済みます。また、登録された単体パッチ／モジュールの設定を、ファイルとしてMacintoshのハードディスク上に書き出すことも可能です。

単体パッチ／モジュールの登録／読み出しを行う

単体パッチ／モジュールの設定データを登録するには、カテゴリーを作成します。また、読み込みもカテゴリー単位で行います。ここではカテゴリーの作成方法と単体パッチ／モジュールの登録方法／読み出し方法について説明します。

■ 単体パッチ／モジュールの登録

1. ライブラリアンウィンドウのパッチリストから登録したい単体パッチ（または登録したいモジュールの設定を含むパッチ）を選んでください。

以下の操作では、現在G9EDforMacで選択されているパッチの設定状態（またはそのパッチに含まれるモジュールの設定状態）をそのまま登録できます。

HINT

- ・ 単体パッチや単体モジュールを登録しても、パッチリストに含まれる元の単体パッチのデータが変化することはありません。
- ・ エディターウィンドウでパッチを編集する方法についての詳細は「Macintosh 上でパッチデータをエディットする」(→P14) をご参照ください。

2. 次の手順に従って、単体パッチ／モジュールを登録する階層（カテゴリー）を作成してください。

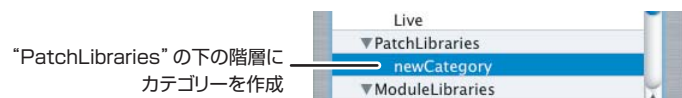
単体パッチ／モジュールの設定は、カテゴリーに登録します。

カテゴリーの作成方法は、次の通りです。

● 単体パッチを登録する場合

ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションにある“PatchLibraries”の階層を[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Add new category”を選択してください（または、階層をクリックして選択し、Editプルダウンメニューから“Add new category”を選びます）。

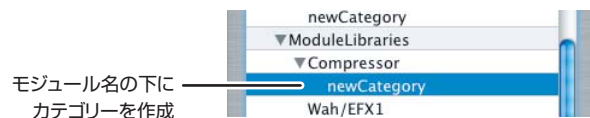
“PatchLibraries” の1つ下の階層に“newCategory”が作成されます。



● 単体モジュールを登録する場合

単体モジュールの設定を登録するには、ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションにある“ModuleLibraries”の階層を使用します。
“ModuleLibraries”の下にはモジュール名が個別に表示されており、モジュールごとに登録が行えるようになっています。

登録したいモジュールに対応するモジュール名を[Control]-クリックして、表示されるメニューから“Add new category”を選択してください（またはモジュール名をクリックして選択し、Editプルダウンメニューから“Add new category”を選びます）。
モジュール名の下に“newCategory”という名前の階層が作成されます。

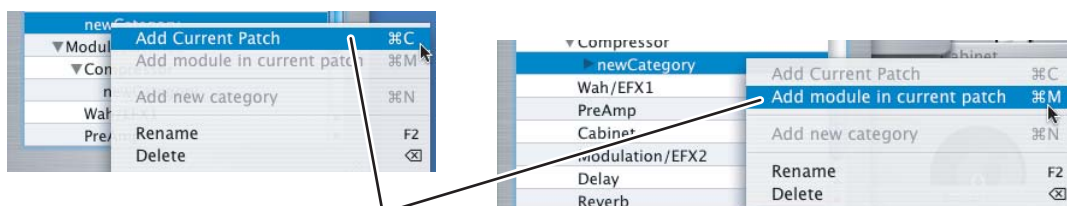


HINT

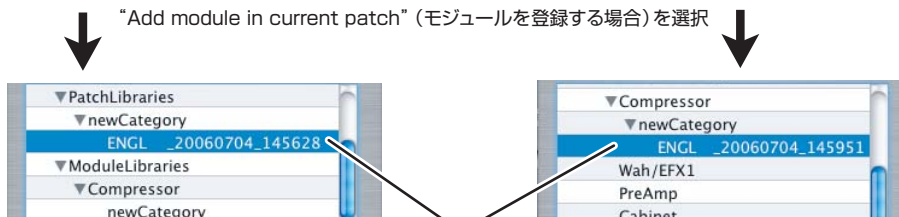
- ・ カテゴリの名前を変更するには、カテゴリを[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Rename”を選びます（またはカテゴリをクリックして選択し、Editプルダウンメニューの“Rename”を選びます）。
- ・ カテゴリを削除するには、カテゴリを[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Delete”を選びます（またはカテゴリをクリックして選択し、Editプルダウンメニューの“Delete”を選びます）。

3. 単体パッチ／モジュールの設定を登録するには、カテゴリを[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Add Current Patch”（パッチを登録する場合）または“Add module in current patch”（モジュールを登録する場合）を選択してください。

カテゴリをクリックして選択し、Editプルダウンメニューからコマンドを選んだ場合も同じ効果が得られます。
現在の単体パッチ／モジュールの設定状態が登録されます。



“Add Current Patch”（パッチを登録する場合）または
“Add module in current patch”（モジュールを登録する場合）を選択



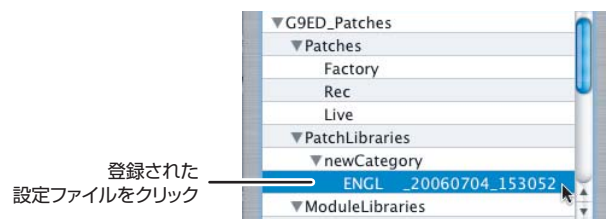
単体パッチ／モジュールの
設定データが登録される

HINT

- ・登録された単体パッチ／モジュールの設定データには、初期設定の名前が付けられます。名前を変更するには、名前を[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Rename”を選びます（または、名前をクリックして選択してから、Editプルダウンメニューの“Rename”を選びます）。
- ・単体パッチ／モジュールの設定データを削除するには、登録された設定データを[Control]-クリックし、表示されるメニューから“Delete”を選びます（または、設定データをクリックして選択してから、Editプルダウンメニューの“Delete”を選びます）。

■ 単体パッチ／モジュールの読み出し

単体パッチ／モジュールの設定データを読み出すには、ライブラリアンウィンドウの“PatchLibraries”または“ModuleLibraries”に登録された設定ファイルをクリックしてください。



パッチの設定を読み出したときは、エディターウィンドウの設定値が即座に切り替わります。また、モジュールの設定を読み出したときは、エディターウィンドウの対応するモジュールのみが即座に切り替わります。

HINT

単体パッチ／モジュールを読み出すと、その設定データはエディターウィンドウだけではなく、G9.2tt本体にも反映されます。

単体パッチ／モジュールの書き出し／読み込みを行う

登録した単体パッチ／モジュールの設定データは、カテゴリー単位でMacintoshのハードディスク上にファイルとして書き出し、必要なときに読み込むことができます。パッチセット単位の書き出しに比べて細かいデータ管理が行えます。

■ カテゴリーの書き出し

ここでは、任意のカテゴリーをMacintosh上にファイルとして書き出す方法を説明します。

- 1. ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションから、書き出したいカテゴリーをクリックして選択してください。**
- 2. ライブラリアンウィンドウのFileプルダウンメニューから“Export”を選んでください。**
Exportを実行すると、ファイル名の設定やファイルの保存先の選択を行うウィンドウが表示されます。
- 3. ファイル名の設定とファイルの保存先の選択が終わったら“保存”ボタンをクリックして書き出しを実行してください。**
ファイルの書き出しが完了するとダイアログが表示されますので、“OK”をクリック

クしてダイアログを閉じます。

NOTE

同じカテゴリに含まれる単体パッチ／モジュールの設定ファイルを個別に書き出すことはできません。

■ カテゴリの読み込み

ここでは、ファイルとして書き出されたカテゴリをG9EDforMacで読み込む方法を説明します。

- 1. ライブラリアンウィンドウのFileプルダウンメニューから“Import”を選んでください。**
Importを実行すると、読み込むファイルの選択を行うウィンドウが表示されます。
- 2. 読み込むファイルを選んだら、“開く” ボタンをクリックして、読み込みを実行してください。**
ライブラリアンウィンドウのライブラリーセクションに、読み込まれたカテゴリが追加されます。

Macintosh上でパッチデータをエディットする

エディターウィンドウを使えば、G9EDforMacに取り込んだパッチセットの中から任意の単体パッチをエディットできます。Macintoshのディスプレイには複数のモジュールを同時に表示できるので、細かくエディットしたいときは特に便利です。エディットした単体パッチは、G9EDforMac側のパッチセット、またはG9.2tt本体のユーザーエリアに保存できます。

エディターウィンドウについて

ここでは、エディターウィンドウの各部の名称と動作について説明します。



① エディターウィンドウ

G9.2tt本体で選ばれているパッチやG9EDforMacに取り込んだパッチをエディットするウィンドウです。

エディターウィンドウは、コントロールセクション、EFFECT CHAINセクション、各種モジュールウィンドウから構成されています。

HINT

- ・ エディターウィンドウを操作すると、エディット内容が G9.2tt 本体にも即座に反映されます。
- ・ G9.2tt側でパッチのエディット操作を行うと、同じようにG9EDforMacのエディターウィンドウに反映されます。ただし、G9EDforMacが対応していない設定値の変更は無視されます。

② コントロールセクション

各種メニューの操作やG9EDforMac全体に関わる操作を行います。

③ EFFECT CHAINセクション

モジュールの挿入位置を設定します。

④ モジュールウィンドウ

ノブやボタンなどを操作して、G9.2tt本体で選ばれているパッチや、G9EDforMacに取り込んだ単体パッチをエディットするウィンドウです。PRE-AMPモジュール、EQモジュール、ZNRモジュール、EXT LOOPモジュールはPreAmpウィンドウにまとめて表示されます。また、パッチレベル (Levelパラメーター) はTotalウィンドウに含まれます。

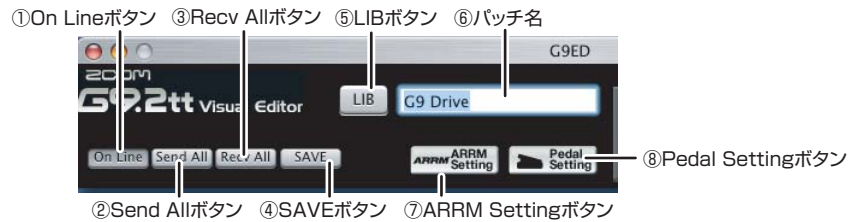
モジュールウィンドウの操作方法についての詳細は「モジュールウィンドウを操作する」(→P16) をご参照ください。

⑤ Commentウィンドウ

ライブラリアンウィンドウで選ばれている単体パッチに、コメントをつけるウィンドウです。入力したコメントをパッチリストに反映させるには、コントロールセクションのSAVEボタンをクリックします。また、このウィンドウが表示されていないときは、Windowメニューの“Comment”を選択して表示させます。

ライブラリアンウィンドウのパッチリストについての詳細は「ライブラリアンウィンドウを操作する」(→P8)をご参照ください。

■ コントロールセクション



① On Lineボタン

G9EDforMacをオンラインに切り替えます (→P3)。

② Send Allボタン

G9EDforMacに取り込まれた任意のパッチセットをG9.2ttに送信して上書きします (→P5)。

③ Recv Allボタン

G9.2ttに保存されたユーザーエリアのすべてのパッチをG9EDforMacに取り込みます (→P4)。

④ SAVEボタン

ライブラリアンウィンドウで選ばれている単体パッチに、現在のエディターウィンドウ上の設定を上書きします。

⑤ LIBボタン

ライブラリアンウィンドウを表示します。

⑥ パッチ名

パッチ名を変更します (入力できるのは最大8文字で、G9.2ttで表示可能な文字に限られます)。

⑦ ARRM Setting ボタン

ARRM機能に関する設定を行います (→P18)。

⑧ Pedal Settingボタン

エクスプレッションペダルに関する設定を行います (→P19)。

NOTE

パッチ名を変更した場合は、G9.2tt本体のパッチ名も変更されます。ただし、本体で保存操作を行わずにG9.2ttのパッチを切り替えると、その変更内容は失われます。また、入力した名前をライブラリアンウィンドウのパッチに反映させるには、SAVEボタンをクリックします。

■ EFFECT CHAINセクション



① AMP pre/postボタン

PRE-AMP モジュールの挿入位置を変更するボタンです。“pre”（MOD/EFX2モジュールの前）または“post”（DELAYモジュールの後）が選べます。

② WAH before/afterボタン

WAH/EFX1 モジュールの挿入位置を変更するボタンです。“before”（プリアンプセクションの前）または“after”（プリアンプセクションの後）が選べます。

NOTE

G9EDforMacでは、EFFECT CHAINセクションでプリアンプセクションやWAH/EFX1モジュールの挿入位置を設定します。このため、モジュールウィンドウにChainパラメーターやPositionパラメーターは表示されません。

HINT

モジュールの挿入位置については、G9.2ttのオペレーションマニュアルをご参照ください。

③ モジュールボタン

モジュールの並び順を表示します。プリアンプセクションやWAH/EFX1モジュールの挿入位置を変更すると、モジュールボタンの位置も変化します。
また、モジュールボタンをクリックすると、閉じたモジュールウィンドウを再び表示させることが可能です。

モジュールウィンドウを操作する

ここではモジュールウィンドウの操作方法を説明します。

■ 共通の操作

多くのモジュールウィンドウに共通の操作について説明します。



① モジュールオン／オフボタン

モジュールのオン／オフを切り替えるボタンです。クリックするたびにオンとオフが切り替わります。オンのときにグレー、オフのときに白くなります。

② エフェクトタイプ切り替えプルダウンメニュー

エフェクトタイプを切り替えるメニューです。右端の▼印をクリックしてプルダウンメニューを表示させ、新しいエフェクトタイプを選びます。

エフェクトタイプを切り替えると、それぞれのノブに割り当てられるパラメーターが

変化します。

③ ノブ／数値ボックス

パラメーターの値を変化させます。値の調節には、ノブ／数値ボックスのどちらでも使用できます。

・ノブ

ノブをクリックしたまま、実際にノブを回すように（円を描くように）マウスをドラッグして値を調節します。

・数値ボックス

ボックス内をクリックしてカーソルを表示させ、Macintoshのキーボードから直接数値を入力します。数値ボックス右端にある上下の矢印をクリックして設定値を変更することも可能です。

■ 特殊な操作

ここでは、特定のモジュールウィンドウでのみ行う特殊な操作について説明します。

● PreAmpウィンドウ

プリアンプセクションに含まれるEXT LOOP、ZNR、PRE-AMP、EQの各モジュールに関する設定を行うウィンドウです。



① チャンネル切り替えボタン

プリアンプセクションのチャンネルA/Bを切り替えるボタンです。選択されたチャンネルのボタンは、青になります。

② EQスライダー

EQモジュールの各帯域を調節するスライダーです。スライダーを上下にドラッグして調節します。

スライダーで調節できるパラメーターは、左からBass、Lo-Mid、Middle、Treble、Presence、Harmonicsです。

● Cabinetウィンドウ



① Depthボタン

効果の深さを設定するボタンです。G9.2tt側では0～2の数値で設定しますが、ここではSmall、Middle、Largeのようにスピーカーキャビネットの大きさを表現します。

② マイクポジション

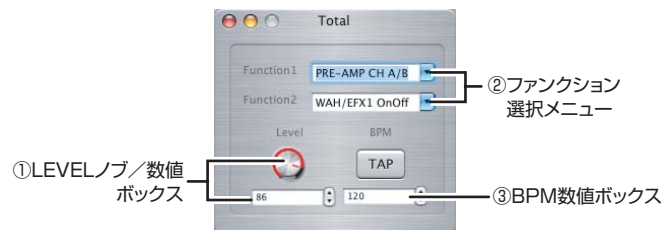
マイクの收音位置を設定します。マイクを左右にドラッグして位置を調節します（3段階）。G9.2tt側では0～2の数値で設定します。

③ MIC Typeボタン

マイクの種類を選ぶボタンです。G9.2ttではDyna、Condと表示されます。DynamicとCondenserを切り替えると、マイクポジションに表示されるマイクの画像も変化します。

● Totalウィンドウ

TOTALモジュールに関する設定を行うウィンドウです。ウィンドウを表示させるには、EFFECT CHAIN セクションでTOTALモジュールボタンをクリックするか、Windowメニューから"Total"を選びます。



① LEVELノブ/数値ボックス

パッチレベルを調節するのに使用します。

② ファンクション選択メニュー

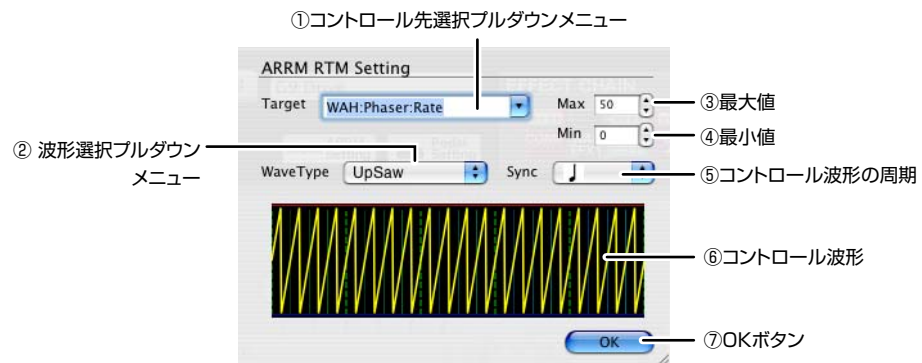
ファンクションフットスイッチ 1 / 2 の機能を選択するのに使用します。

③ BPM数値ボックス

パッチ固有のテンポを設定するのに使用します。

● ARRM RTM Settingウィンドウ

コントロールセクションのARRM Settingボタンをクリックしたときに表示されるウィンドウです。このウィンドウでは、ARRM機能に関する設定を行います。



① コントロール先選択プルダウンメニュー

ARRM機能を使って操作するコントロール先のモジュールとパラメーターを選択します。

② 波形選択プルダウンメニュー

コントロール波形の種類を選択します。

③ 最大値

コントロール波形が最大値のときに、コントロール先のパラメーターが到達する値を設定します。

④ 最小値

コントロール波形が最小値のときに、コントロール先のパラメーターが到達する値を設定します。

⑤ コントロール波形の周期

コントロール波形の周期を設定します。コントロール波形の周期は、パッチ固有のテンポを基準にして、8分音符、4分音符、4分音符×数字（2～20）で表されます。

⑥ コントロール波形

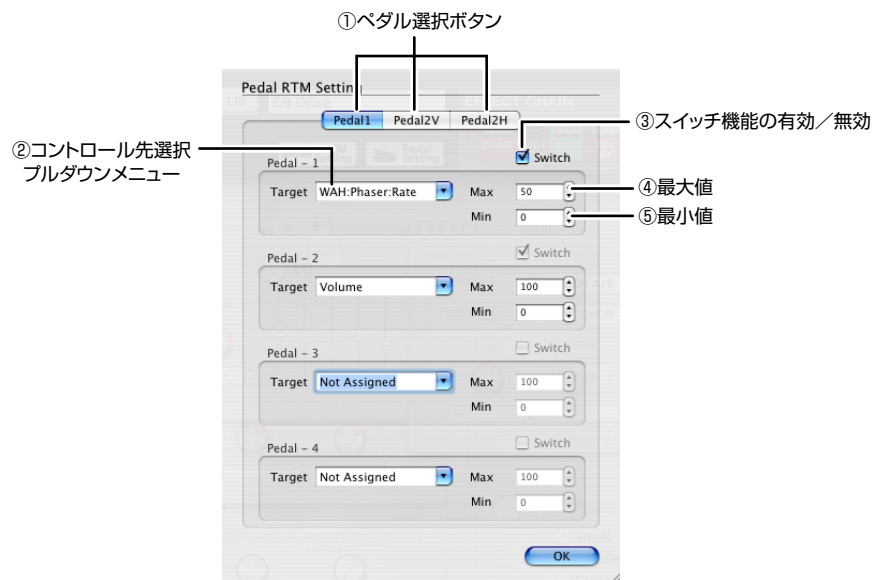
現在選ばれているコントロール波形の種類と周期をグラフ表示します。

⑦ OK ボタン

変更内容を確定してウィンドウを閉じます。

● Pedal RTM Settingウィンドウ

コントロールセクションのPedal Setting ボタンをクリックしたときに表示されるウィンドウです。このウィンドウでは、エクスプレッションペダル1／2に関する設定を行います。



① ペダル選択ボタン

設定を行うエクスプレッションペダルの種類と方向を選ぶボタンです。Pedal1（エクスプレッションペダル1）、Pedal2V（エクスプレッションペダル2の垂直方向の操作）、Pedal2H（エクスプレッションペダル2の水平方向の操作）が選択できます。

② コントロール先選択プルダウンメニュー

エクスプレッションペダルで操作するコントロール先のモジュールとパラメーターを選択します。Pedal1、Pedal2V、Pedal2Hのそれぞれに対し、最大4つのコントロール先を指定できます。

③ スイッチ機能の有効／無効

エクスプレッションペダルのスイッチ機能の有効／無効を切り替えます。このチェックボックスにチェックを入れると、対応するエクスプレッションペダルを深く踏み込んだときに、コントロール先となるモジュールのオン／オフが切り替わります。

なお、コントロール先として“Not Assigned”または“Volume”が選ばれているときは、このチェックボックスは無効です。また、Pedal2Hボタンが選ばれているときは、このチェックボックスは表示されません。

④ 最大値

エクспレッションペダル1 / 2を踏み込んだとき（またはエクспレッションペダル2を時計方向に回しきったとき）に、コントロール先のパラメーターが到達する値を設定します。

⑤ 最小値

エクспレッションペダルを踏み上げたとき（またはエクспレッションペダル2を反時計方向に回しきったとき）に、コントロール先のパラメーターが到達する値を設定します。

単体パッチをエディットする

ここではエディターウィンドウを使って単体パッチをエディットする手順を説明します。エディットしたパッチは、G9EDforMacで現在選ばれているパッチに上書きしたり、G9.2tt本体に保存したりできます。

1. コントロールセクションのLIBボタンをクリックして、ライブラリアンウィンドウを表示させてください。

HINT

G9EDforMacにあらかじめ保存されているパッチセット“Factory”は、G9.2ttの工場出荷時のユーザーエリアのパッチと同じ内容です。

2. ライブラリアンウィンドウ下部（ライブラリーセクション）の“Patches”の階層に保存されている、任意のパッチセットをクリックして選択してください。

ライブラリアンウィンドウ上部（パッチリスト）には、選んだパッチセットに含まれるすべてのパッチが表示されます。

HINT

ライブラリアンウィンドウの操作方法について詳しくは「ライブラリアンウィンドウを操作する」（→P8）をご参照ください。

3. パッチリストの中から、エディットするパッチをクリックして選択してください。

パッチリストのパッチを切り替えると、エディターウィンドウとG9.2ttにその設定が反映されます。

NOTE

- ・ G9EDforMacでパッチを保存する場合、ここで選んだパッチに上書きされます。別の位置に保存することはできません。
- ・ この手順でパッチを選ばなかった場合は、最後に選ばれていた単体パッチが操作の対象となります。

4. エディターウィンドウでパッチをエディットしてください。

エディターウィンドウの操作について詳しくは「エディターウィンドウについて」（→P14）、「モジュールウィンドウを操作する」（→P16）をご参照ください。

エディターウィンドウでノブやボタンを操作すると、そのエディット内容はG9.2ttに反映されます。

HINT

G9.2tt側を操作すると、同じようにG9EDforMacのエディターウィンドウに反映されます。ただし、G9EDforMac側で対応していない設定値の変更は無視されます。

NOTE

G9.2tt側の音色変化は、一時的なものだということにご注意ください。G9EDforMacまたはG9.2ttを操作して他のパッチに切り替えたときに、破棄されます。

5. 単体パッチのエディットが終わったら、次の手順にしたがって現在のパッチを保存してください。

● G9EDforMacで選択した単体パッチを上書きするには

エディターウィンドウで行なったエディット内容を、G9EDforMacで選択した単体パッチに上書きするには、コントロールセクションのSAVEボタンをクリックしてください。上書き保存が完了するとダイアログが表示されますので、“OK”をクリックしてダイアログを閉じます。ここでは、手順3で選んだパッチに上書きされます。

● G9.2tt本体に保存するには

エディターウィンドウで行なったエディット内容は、G9.2tt本体の設定値にも反映されています。このエディット内容をG9.2tt本体のパッチとして残しておきたいときは、G9.2tt側で現在選ばれているパッチをユーザーエリアに保存してください。

NOTE

- ・ライブラリアンウィンドウでパッチを切り替えても、G9.2tt 本体で選ばれているパッチは連動しないことにご注意ください。例えば、ライブラリアンウィンドウで選んだ単体パッチをG9.2tt本体に保存する場合、本来のバンク番号／パッチ番号とは無関係に、G9.2ttで現在選ばれているパッチが保存先となります。
- ・同じように、G9.2tt でパッチを切り替えても、ライブラリアンウィンドウで選ばれているパッチは連動しません。

HINT

- ・上記のような保存操作以外に、エディット内容を単体パッチとして登録（→P10）しておくことも可能です。
- ・SAVE ボタンと単体パッチの登録／読み出し（→P10）を併用すれば、パッチの並び替えも行えます。例えば、パッチリストU0-1～U0-5の順番を変更したい場合、これらのパッチを順番にエディターウィンドウに呼び出し単体パッチとして個別に登録します。5つのパッチを登録したら、もう一度U0-1～U0-5のパッチを順番にエディターウィンドウに呼び出し、好みの順番で登録した単体パッチを使って上書きします。